

学 習 指 導 案

H R	2 年 3 組	教 室	2 0 3 教室	日 時	平成 1 6 年 5 月 3 1 日 (月) 第 1 限		
単 元	第 1 章 平面上のベクトル	教科書	数学 B (数研出版)		指 導 者	(省略)	
単 元 目 標	本章の平面ベクトルを初めとして、次章の空間のベクトルを、数学的な対象として正しく把握させるとともに、まとまった知識と一貫した考え方と計算を習得できるようにする。		指 導 計 画	第 1 章 平面上のベクトル 第 1 節 平面上のベクトルとその演算・・・ 8 時間 第 2 節 ベクトルと平面図形 …… 7 時間 (本時は 4 時間目) 演習問題 …… 2 時間			
本時の 目 標	$\vec{OP} = s\vec{OA} + t\vec{OB}$ で表される点 P が s, t の条件式により、存在範囲が変化することを考えさせる。						
課 題	教科書 P 36 の練習 26 を解いてくる。						
本 時 展 開 指 導	学 習 内 容			分	指 導 上 の 留 意 点		資料等
	導 入	1 P 36 の練習 26 を通して、前時の復習をする。 2 本時の目標を確認する。		5 分	・ $s+t=1, s \geq 0, t \geq 0$ のとき、点 P は線分 AB 上にあることを確認させる。		
	展 開	1 $\vec{OP} = s\vec{OA} + t\vec{OB}$ で表される点 P が OAB の内部にあるための具体的な s, t の値を求める。 2 $\vec{OP} = s\vec{OA} + t\vec{OB}$ で表される点 P が OAB の外部にあるための具体的な s, t の値を求める。		5 分 15 分	・ 具体的な \vec{OP} を考えさせ、プリントに書かせる。 関心・意欲・態度 積極的に問題に取り組んでいるか 表現・処理 具体的な s, t を当てはめ、正しく図示できているか。		プリント
	開	3 $\vec{OP} = s\vec{OA} + t\vec{OB}$ の $s, t, s+t$ の値の範囲によって表される点 P の存在領域をまとめる。 4 P 37 の問 17 を解く。		10 分 10 分	数学的な考え方 s, t の符号, $s+t$ と 1 の大小による点 P の存在範囲が理解できたか。 ・ $s+t \leq 1, s \geq 0, t \geq 0$ の形に直して考えさせる。		
	導	1 本時のまとめをする。 2 次時の予告をする。		5 分	・ プリントで本時の確認をする。 ・ P 37 の練習 27 を課題として与える。		
備 考	生徒数 4 2 名 (男子 2 3 名 ・ 女子 1 9 名) 習熟度の高い理系クラス						